

ネパール地震緊急救援活動

2015年4月25日(土)の夕方(日本時間)に発生したネパール地震に対して、日本赤十字社は同日深夜に1名が先遣隊として出発、発災翌日の4月26日午前に当院から医師、看護師それぞれ1名が関空から出発しました。27日にネパールの首都カトマンズで行われた、ネパール厚労省のミーティングで日赤はシンドパルチョーク郡メラムチという場所を割り当てられ、日赤医療チームは、現地で被害を逃れ兼ね診療センターを支援する形で4月29日より診療を開始しました。活動は7月31日まで3チーム計45名を日赤から派遣し、3ヶ月余りの診療活動を行いました。当院からは、前述の発災直後に派遣した医師、看護師に加えて順次職員を派遣、最終的には医師2名、看護師2名、薬剤師1名、臨床工学技士1名、事務要員2名の計8名をそれぞれ約2ヶ月ずつ派遣しています。現地では、合計15,599名の被災者を診療し、3,639名にこころのケア活動を行いました。大きく4つの活動を、以下に紹介いたします。

1. 現地診療所を拠点とした医療活動と巡回診療

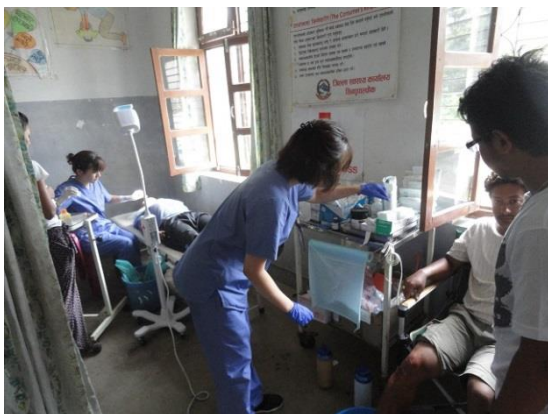
4月29日から7月31日まで、1日平均で150名前後、合計14,416名の被災者の診療を行いました。このうち外傷は3,446名、全体の約24%でした。手術を208例、ギプス固定を111例に行い、持ち込んだレントゲンの器材で撮影した件数は824件でした。



仮設診療所正面から



受付テント



処置室



病棟テント

2. 巡回診療

メラムチの診療センターに来られない被災者のため、同診療所がカバーする地域（22の診療所）で巡回診療を行いました。計11回の巡回診療で1,183名の診療を行っています。7月から本格的な雨季に入り、道路状況から巡回診療が困難になってきたため、各地区の診療所から一人ずつとメラムチ診療センターから5名、計27名の医療職を招き、雨季対策（下痢疾患への対応）と、外傷への対処などを中心に2日間のワークショップを2回行って技術移転をしています。



山岳部への巡回診療



3. コミュニティでの教育活動

メラムチ診療センターの周辺の小学校5校を対象に、1校あたり先生1名、生徒5名を選抜してもらい、1日の教育セミナーを開きました。参加者30名で、プログラムの内容は下痢疾患への対応、応急手当のしかた、こころのケアの対処のしかたなどです。セミナー後に、受講者は各学校で伝達講習を行い、合計629名の生徒に伝達を行っています。活動はこの後地域のネパール赤十字社に引き継がれています。



小学校の生徒と先生を招いて教育活動

4. こころのケア活動

こころのケア活動は、コミュニティ、学校、我々の医療施設を受診する患者さんを対象に行っています。活動内容は、個別面談、学校での人形劇を通じたストレスの対処法の紹介、チャイルドフレンドリースペースといってテントを立てて子供たちの遊び場の提供、また、花壇を作成し、一緒に草花を育てるといったものです。これら4つのこころのケア活動を行った対象者は、合計3,639名になりました。我々の活動終了後、チャイルドフレンドリースペースは、隣の公立小学校の先生に運営方法を伝達して移譲しました。



地域の子供に遊び場を提供（チャイルドフレンドリースペース）



小学校の生徒相手に人形劇

緊急救援活動終了後も、日赤は復興支援を続けており、メラムチ周辺の損壊した診療所の再建設や、壊れた住宅の再建にすでに着手しています。また、被災地域の病院支援も計画しており、緊急救援から復興支援へ切れ目のない支援を継続しております。最後に、これらの支援はすべて皆様からの救援金によって行われておりますことを申し添え、ここに深謝いたします。